



認定特定非営利活動（NPO）法人 柔道教育ソリダリティー



Newsletter vol. 13
Certified NPO – Solidarity of International Judo Education

①東海大学とスポーツを通じた国際交流における協定を締結（東海大学・平塚市） ②グアムキャンプ（グアム島） ③第13回講演会（東京・千代田区）
④イスラエル人研修生ベル氏と光本教授（京都・しょうざん庭園） ⑤柔道教室（ロシア・サンクトペテルブルグ） ⑥学生ボランティアとミャンマーナショナルチーム（ミャンマー・ヤンゴン）

国際的な柔道の普及—「自他共栄」を実現するために

— To promote the international popularization of judo and realization of *jitakyoei* (mutual prosperity for oneself and others).

現在、国際柔道連盟(IJF)には、200の国と地域が加盟しています。柔道は、一流競技者から一般市民に至るまで愛好され、各国の文化的特性と融合しながら創始者嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。

柔道を通して日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたい

— We communicate the Japanese spirit.

昨今の国際情勢を見ると、紛争やテロ、地球環境の劣化、南北格差の拡大、人口増加など問題が山積みされています。そのような状況の中、一部の発展途上国では柔道の指導者、道衣、畳、教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状があります。柔道の国際的普及、振興に努めていきます。

今、大切なことは、子どもたちをいかにして育てていくか

— Educate youth through judo.

柔道を通して世界中の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することの近道と考えております。これからの社会を担っていく青少年を、柔道を通して育成することが大切であると考えております。



認定特定非営利活動法人
柔道教育ソリダリティー

認定特定非営利活動法人

柔道教育ソリダリティー会報第13号

2013年3月1日発行 Published 1st of March 2013

発行人：山下泰裕

発行所：特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

東海大学 体育学部 柔道研究室

Address : 4-1-1 Kitakaname, Hiratsuka-shi, Kanagawa

Japan, 259-1292

T E L : 0463-58-1211 (内線3524)

F A X : 0463-50-2230

Email : judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

Vol. 13

<http://npo-jks.jp>

柔道 友情 平和

検索

※柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁の認定を受けました。本法人へのご寄付は、寄付金控除、損金算入などの税の優遇措置の対象になります。

2012年度の活動について



2012年度の活動について簡単に報告させていただきます。柔道用品(柔道衣・畳)を海外に広める支援活動を行っています。今年は、コロンビア、サモア、エジプト、ミャンマー、スワジランド、ペルーの6カ国にリサイクル柔道衣360着、ミャンマーには畳99枚も無償で提供しました。

2011年度と同様に、海外からの柔道指導者受入れ事業として、イスラエルとパレスチナから柔道指導者を1名ずつ、1ヶ月間受け入れました(2012年11月～12月)。また、ロシアから若手の女性指導者2名も受け入れました。彼女達は、今後のロシア女子柔道を担う指導者として、2012年12月から2013年6月の7ヶ月間、研修を受けていただきます。選手の受け入れ事業として、アフガニスタンから女子柔道選手1名を招へいしました。2012年に開催されたロンドンオリンピックを目指して、2011年12月より7ヶ月間受け入れた選手です。残念ながらオリンピックには出場できませんでしたが、総会のときに本人の挨拶がありましたので、ご記憶の方もいらっしゃると思います。ボランティア学生については、ミャンマー、グアムの2ヶ国に、各2名、計4名派遣しております。

中国との交流では、橋本副理事長が中心となってご尽力下さっています。中国の少年少女が参加した中国語版初心者用『柔道教則本』を作成し、日中友好柔道館を通じて、中国の方々に贈呈させていただきました。

私自身の活動としては、6月から7月に外務省ミャンマー文化・スポーツ交流ミッションの一員としてミャンマーを訪問しました。9月には、APECが開催されていたロシアに、柔道を広めるために出かけました。現地では、ロシアの格闘技「サンボ」の創始者「オシェプコフ生誕120周年記念式典」が行われており、その式典にも参加してきました。

現在、日中・日韓で領土問題が大変厳しい状況にあります。2012年3月、私は日中友好南京柔道館の2周年記念行事に参加することになっておりました。ところが、出発の一週間前に、河村名古屋市長による南京問題への発言があったため、訪中は延期になりました。今年は日中国交正常化40周年です。これを記念し、NHKのBSプレミアムで、本法人が取り組んでいる南京・青島での交流活動が、40分間の番組として紹介されるはずでした。しかしながら、中国とのドキュメント番組を作るには時期が悪すぎるという判断が下りました。こういう時期だからこそ、交流を絶やしてはいけないと思うのですが、NHKからの申し出を受け入れ、断念いたしました。

様々な世界情勢がある中ですが、ご報告いたしました活動を継続できるのは、会員の皆さま、協賛いただいている企業の皆さまのお力の賜物だと思っております。この場をお借りいたしまして、皆様のご支援、ご協力に、心から御礼を申し上げます。

認定特定非営利活動(NPO)法人柔道教育ソリダリティー 理事長 山下泰裕

主な活動 (2012年7月～2012年12月)

- Major Activities -

年 月 日	内 容
2012年7月8日	第34回山下旗柔道大会を視察(宮城県・登米市)
2012年8月	リサイクル柔道衣及び畳がミャンマーに到着(ミャンマー・ヤンゴン市)
2012年8月14日～9月13日	学生ボランティア2名をミャンマーへ派遣(ミャンマー・ヤンゴン市)
2012年8月25日～26日	第3回望星ジャンボリー柔道大会を支援(神奈川県・東海大学)
2012年8月29日～9月2日	橋本副理事長、山口輝義氏、学生ボランティア2名をグアムへ派遣(グアム島)
2012年9月3日	東海大学とスポーツを通じた国際交流における協定を締結(神奈川県・東海大学)
2012年9月9日	オシェプコフ生誕120周年記念式典に山下理事長らが出席(ロシア・ウラジオストク市)
2012年10月21日	第31回望星旗少年武道大会(柔道の部)を支援(神奈川県・東海大学)
2012年11月14日～12月19日	イスラエルより柔道指導者ダニエル・ベル氏を受入(東海大学等)
2012年11月17日～12月11日	パレスチナより柔道指導者モニエル・モーセン氏を受入(東海大学等)
2012年11月21日	東海大学日本語別科の留学生に柔道体験教室を開催(神奈川県・東海大学)
2012年12月2日	Rasty Kanokogi Memorial 第32回塾友杯柔道少年大会を支援(東京都・望星学塾)
2012年12月7日	第13回講演会を開催(東京・千代田区)
2012年12月5日～	ロシアより女子柔道指導者エレナさん、カーチャさんを受入(東海大学等)

リサイクル柔道衣、ミャンマー柔道連盟への贈呈式にて

Scene from the ceremony to present recycled judogis to
The Myanmar Judo Federation



日本の心、柔道を世界へ伝えるために

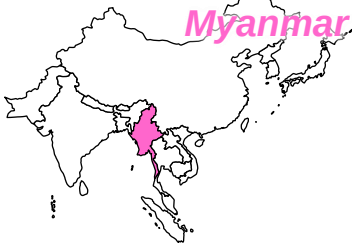
柔道用品(柔道衣・畳)の支援

2012年度は、柔道衣360着、畳99枚を(6カ国)を送りました。

2012年8月に送付したリサイクル柔道衣100着及び畳99枚が、同月にミャンマー・ヤンゴン市に到着しました。

In August 2012, 100 recycled judogis and 99 tatami mats that we sent in the same month arrived in Yangon City, Myanmar.

Republic of the Union of Myanmar



2012年6月、外務省ミャンマー文化・スポーツミッションの一環で山下泰裕理事長がミャンマーに派遣されました。その中で、ミャンマー柔道連盟の方々と意見交換を行い、2013年に行われる東南アジア競技大会(SEA Games)の強化のためにリサイクル柔道衣、リサイクル畳の無償提供を決定しました。2013年のSEA Gamesは、ミャンマーが開催国となるため、地元では期待が高まっています。

2012年8月、皆さまからいただいたリサイクル柔道衣100着、桜美林大学から寄附していただきました畳99枚の発送を行いました。同月、ミャンマー・ヤンゴン市のミャンマー柔道連盟に届けました。在ミャンマー日本大使館のご協力を得て贈呈式を行いました。贈呈式では、在ミャンマー日本大使館丸山市郎公使にご出席いただき、山下理事長からのメッセージを代読していただきました。学生ボランティアで柔道指導を行っていた井坪圭佑君と工藤優宗君が式典に参加させていただきました。



在ミャンマー大使館丸山公使よりミャンマー柔道連盟トウン・トウン会長にリサイクル柔道衣が贈呈されました

NPO法人柔道教育ソリダリティー 山下泰裕 理事長

皆さまが寄附して下さいました柔道衣100着と畳99枚を受け取りました。ミャンマー柔道の普及を支援して下さい、日本政府、日本大使館そして日本の柔道関係者に感謝申し上げます。皆さまのご協力により、ミャンマーの柔道普及・振興がなされております。また、山下先生をはじめ、NPO法人柔道教育ソリダリティーの皆さまへ心より感謝申し上げます。ミャンマー柔道のレベルアップに向け、今後も努力していきます。

ミャンマー柔道連盟 会長 トウン・トウン

第13回講演会

「平和でないとスポーツはできない」

2012年12月7日(金)、東京・千代田区の日本教育会館にて、第13回講演会を開催しました。「平和でないとスポーツはできない」の演題で、長田渚左さんがスポーツと国際交流の可能性を話しました。

The 13th lecture meeting was held at the Japan Education Center in Chiyoda Ward, Tokyo, on Friday, December 7, 2012. Under the theme of "Sports Cannot be Played If not in Peace" Ms. Nagisa Osada talked about the possibility of sports and international exchange.



スポーツゴジラを手に、講演会で話す長田渚左さん

2012年12月7日に、東京都千代田区の日本教育会館にて、第13回講演会を開催しました。NHK若者向け番組「FMホットライン」番組編集長として長く活躍され、現在は日本ペンクラブ会員、ノンフィクション作家としても活躍で女性スポーツジャーナリストの草分け的存在の長田渚左さんを講師に迎え、「平和でないとスポーツはできない」の演題で話をいただきました。

初めにオリンピックに関して、山下理事長を長い間取材されている長田さんしか知らない、ロサンゼルスオリンピックの「秘策」をお話下さいました。テロやその他の事件が頻発する中で行われた2004年のアテネオリンピックでは、「古代の人々が、戦争をする代わりにオリンピックで競い合うとした」その精神を思い出せるように、新聞(タブロイド版)を発行しアテネ駅で14万部も配布したことを話されました。それが現在20号まで続いている「スポーツゴジラ」の始まりになったと、スポーツゴジラを片手に説明されました。スポーツゴジラ20号では、「スポーツと戦争」というテーマで旧ユーゴスラビア出身のイビツァ・オシム氏、被ばく体験を持っている張本勲氏、戦争で命を落とした沢村英治氏の話を取り上げられたこと述べられました。

「他にもいろいろなスポーツをやりたいのに、戦争によってできなくなってしまった命がたくさんあります。今回のスポーツゴジラ20号では、スポーツが戦争によって奪われた時代があったこと、やりたいことが捻じ曲げられて、やらせてもらえなかった時代があったこと、多くの方にお伝えしたかったのです。スポーツによって国際交流ができる今の時代は、素晴らしいです。外交的な対立がある国の人々をイメージで判断することなく、スポーツを通じて交流を持ち、より良い関係性を築いていけたら。それができれば、スポーツは最高です」と締めくくりました。

スポーツゴジラについて ⇒ <http://sportsnetworkjapan.com/index.html>

外国からの指導者・選手受入支援事業

2012年11月14日～12月19日の期間、イスラエルの柔道指導者ダニエル・ベル氏、2012年11月17日～12月11日の期間、パレスチナのモニエル・モーセン氏が東海大学を中心に、少年柔道の教育法を学びました。



研修をさせていただいた濱名道場の皆さんと



京都で日本の文化に触れたモニエル氏



ご家族で来日されたベル氏、井上先生と記念撮影

Mr. Daniel Bell, an Israeli judo instructor, and Mr. Monir Mohsen, a Palestinian judo instructor, learned the education method of youth judo at Tokai University and other facilities, from November 14 to December 19, 2012, and from November 17 to December 11, 2012, respectively.

外国からの柔道指導者・選手受入支援事業として、イスラエルとパレスチナより柔道指導者各1名を招へいしました。2名が来日した2012年11月には、イスラエルがパレスチナ・ガザ地区へ空爆を行うなど2国間は深刻な状況にあり、両柔道連盟が2名の派遣を見送るかとも考えられました。そんな中、両柔道連盟は本法人の趣旨に賛同し派遣を決め、今回の研修が実現しました。

イスラエルのダニエル・ベル氏は、イスラエル・テルアビブ市でコンピュータープログラマーとして活躍されています。柔道を6歳から始め、イスラエルの町道場で子供たちへ柔道指導を行っているそうです。パレスチナのモニエル・モーセン氏は、パレスチナ・エルサレム市の高校でイスラム教を教えるかたわら、エルサレム市の町道場で子供たちの柔道指導を行っています。

1ヶ月の研修期間中、子供たちへの柔道指導法の研修として、講道館(文京区)、朝飛道場(横浜市)、濱名道場(大磯町)、松前柔道塾(武蔵野市)、湘南ジュニアスポーツクラブ(平塚市)を訪問し指導の実際を体験するなど多くの事を学びました。受入れ先の朝飛道場朝飛大先生、濱名道場濱名三代子先生、濱名智男先生、及び稽古に参加の皆さまに心よりお礼申し上げます。

また、日本文化に触れるために、京都、東京下町を観光を行いました。イスラエル・パレスチナでは、一緒に生活をしていくことが難しい二人ですが、日本では一緒に行動し、お互いの文化・宗教を尊重し合い生活する中で、来日時と考えが変わったそうです。2名と一緒に写真に映ることが出来ない等の制約がありましたが、モニエル氏は、帰国前に「今すぐには、難しいかもしれないけれど、私達の子どもが、一緒に柔道を出来る時代が来るようにしたい」と語りました。

2012年11月17日に日本に到着してから日本の研修の報告書としていくつかの点をここに書かせていただきます。日本人はとても善良で、親切で、協力的な人達でした。柔道指導に関して、光本先生、白瀬先生、竹内先生、中西先生、井上先生らに、素晴らしいプログラムを準備していただき、短い期間でしたがたくさんの事を勉強させていただきました。幾つかの町道場を訪問し、トレーニング方法や指導方法を見学させていただきました。中でも、少年少女への指導方法には感銘を受けました。また、講道館では、青年の指導を見学する機会をいただきました。

柔道グランドスラム東京2012を見学させていただいたことは、日本の柔道を知るための良い機会となりました。日本に滞在し、私は日本がとても美しい国であることを発見し、とても好きになりました。帰国後もその事を皆に伝えたいです。

日本への訪問を手助けして下さい下さった方々に感謝します。山下先生、恵子さん、浩子さん、NPO法人柔道教育ソリダリティーの皆さま、日本で私を助けて下さった方々に感謝申し上げます。

モニエル・ターリブ・アブドゥラジク・モフシン

東海大学で受けたNPO法人柔道教育ソリダリティーの指導者研修は、とても素晴らしい経験となりました。道場でモニエルさんと私を専任で何時間も指導して下さい下さった光本健次先生から、姿勢や握りを少し変えるだけで自分のエネルギーや力をうまく活用できることを学びました。また、受身、握り、投げ技を詳しく学ぶことで、柔道初心者にしっかりと基礎を教えられるということも学びました。

「自他共栄」、これを学ぶことができる最良の例が、NPO活動そのものだといえます。世界の柔道の発展のために多くの協力者から寛大な寄付が寄せられていること、他者を助けることが、与える側と受ける側の双方にとり利益になるということを示しています。相手が高まれば自分自身も高まる、という嘉納治五郎先生の考えに従っているのだと思います。

小さい子どもたちが、組み合う前に相手に許可を求め、終わりにはお辞儀をして礼を言う姿にも、非常に感銘を受けました。自らの成功と成長のためには他者が必要であることを子どもたちが理解していることこそ、自他共栄という考えが浸透しているのだと思いました。

小さな子どもから講道館杯に出場した最高齢の86歳の選手、初心者から高いレベルの選手まで、柔道を楽しんでいる様子を見て、柔道はスポーツとしても生涯を通じた教育手段としても利用できるという思いを強くしました。濱名道場および松前柔道塾でダウン症の子どもや大人が共に柔道をしているのを見て、非常に感激しました。

ベツレヘム市から来たモニエル・モーセンさんと今回の研修を一緒に受けました。私たち2人は、地理的には近い場所に住んでいますが、イスラエルで会うことはできません。彼のように優しい方と知り合うことができ、嬉しく思います。いつの日か、私たち2人の相互の経験を活かし、2つの民族の間に橋を架けるために力を合わせ、イスラエルの1つ道場で2つの民族が一緒に稽古をできる日が来ることを願っています。

最後に、山下泰裕先生ならびにNPO法人柔道教育ソリダリティーの皆さま、光本恵子さんと小澤浩子さんに深くお礼を申し上げます。皆さまのご親切と素晴らしい気配りにより有意義な体験をさせて頂きました。今回の日本での研修は決して忘れられない経験となりました。心よりお礼申し上げます。

ダニエル・ベル

外国への指導者派遣事業



2012年8月29日～9月2日の期間、橋本敏明副理事長、山口輝義氏、学生ボランティアとして野口竜光君、佐藤優作君をグアムに派遣しました。

We dispatched Assistant Executive Director Toshiaki Hashimoto, Mr. Teruyoshi Yamaguchi, and two volunteer students, Ryuko Noguchi and Yusaku Sato, to Guam, from August 29 to September 2, 2012.

2012年8月29日～9月2日の期間、橋本敏明副理事長、東海大学職員の山口輝義氏、学生ボランティアとして東海大学柔道部4年の佐藤優作君と野口竜光君をグアムに派遣しました。

グアムでは、グアムオリンピック委員会委員長・マリアナ柔道協会代表のリック・ブラス氏の下、マリアナ柔道協会及びパラオ柔道協会の方を対象に、柔道指導を行いました。また、本法人の活動を説明する講演会を開催し橋本理事長が「松前重義先生の掲げた国際平和構築の目標と、その志を引き継いだ東海大学とNPO法人柔道教育ソリダリティーの活動」の演題で話しました。グアム滞在中には、グアム副知事レイ・テノリオ氏、グアム大学総長アンドロウッド氏を表敬訪問し、本法人の活動内容、今回のプログラムについて説明を行いました。テノリオ副知事からは、このような交流が活発化することを希望し、今後の交流も、グアム政府として協力を惜しまないという言葉いただきました。アンドロウッド総長は、グアム大学での柔道授業の可能性を話され、大学として今後の交流に前向きな考えを示されました。

山口輝義氏 報告書より抜粋

●ジュニアクラス(小学生～高校生)の練習に取り組む姿勢が印象的だった。技術指導に素直に耳を傾け、短期間に多くのことを吸収していた。身体能力の高い生徒もいるので、練習を継続すれば競技成績も期待できるであろう。大会参加は、生徒に身近な目標を持たせ、練習成果を確認する貴重な機会である。しかし、グアム島における試合は、全く無いとのことであった。日本の試合に参加できるようにしたり、日本から生徒が来たときに小さな大会を開催するなど、今後の交流と協力が望まれる点である。

●「五の形」の演武と説明は大変好評だった。特に橋本先生が「海の民である皆さんのために」と「五の形」が海(波)の摂理を表現し、嘉納師範が投技の極意をそこに含めたという導入の説明が彼らの心を捉えた。さらに一貫して「柔道は競技選手だけのものではなく、子供からお年寄りまで、みんなのためにあるものです」と語りかけたことや、「道場だけでなく、自分の部屋でも仕事場でもビーチでも、どこでも学ぶことができる」という表現も、参加者に柔道に対する新しい視点を与えた。私が今まで経験した中で最も明るく活気にあふれた形の講習会であった(その後のグアムからの報告によると、「五の形」は継続的に練習しており、今後は子供達の昇級試験科目にするとのこと)。



グアム政府市庁舎を表敬訪問



グアム、オリンピック委員会会議室にて講話を行う橋本副理事長

●柔道を通じた「平和教育」の実践を目標に掲げたが、平和慰霊公苑をキャンプ参加者と訪れたことは大変貴重な時間であった。大人の方々は、勿論グアム戦のことをご存じだったが、「日本にも命がけで戦争に反対した人たちがいた」ということに感銘を受けた様子だった。また松前重義先生の人生と平和に対する思いにも大きく頷いていた。橋本先生が最後に「ですから東海大学柔道部の最終目標はチャンピオンを育てることではなく、柔道を通じて平和な世界を築くことです。東海大学の全ての学部は、それぞれの学問・研究分野を通じて国際平和を構築することを目指しています」と話すと大きな拍手が送られた。

●この5日間は、グアムの若い指導陣が指導方法を学ぶ機会になった。朝のトレーニングにおいては、限られた時間で効率的なメニューの組み方、具体的なトレーニング方法を指導した。実技においては、特に立技・寝技とも、基本技術の習得方法(打込の仕方など)に時間を割いたが、これらのことは学生指導員(佐藤君・野口君)が実際の動作で見せてくれた。二人の協力に感謝したい。今回の海外における指導は二人にとっても貴重な経験になったと思う。これをきっかけに視野を広げ、異文化に対する理解を深め、これから進む道で良きリーダーになってもらいたい。

●リック先生からグアムを含むマリアナ諸島やオセアニア地域の島々の現状を聞き、今後の交流や協力が必要な分野について要望があった。グアムにおいては若い指導者の養成が急務とのことで、早急に具体的なプログラムを作成することで意見が一致した。それ以外の項目(指導者派遣、リサイクル柔道衣送付など)については、それぞれの島の状況と要望をリック先生が整理することになった。



「五の形」の指導を行う橋本副理事長



早朝トレーニングには、20名が参加した

日本から一番近いアメリカ・グアムとその周辺に広がるマリアナ地域と交流を活性化させ、柔道を通じた相互理解、人材育成を行うことは双方にとって大切だと感じた。最後に、今回のキャンプに私たちを派遣して下さいだったNPO法人柔道教育ソリダリティー理事長の山下泰裕先生、事務局の光本恵子さん、小澤浩子さん、企画から運営までご指導をいただいた橋本敏明先生、生徒たちと一緒に汗を流してくれた佐藤優作君と野口竜光君に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

学生ボランティア

グアム Guam

2012年8月29日～9月2日の期間、学生ボランティアとして野口竜光君、佐藤優作君をグアムに派遣しました。

From August 29 to September 2, 2012, we dispatched Ryuko Noguchi and Yusaku Sato to Guam, as student volunteers.



マリアナ柔道協会40名、パラオ柔道協会1名がグアムキャンプに参加しました



グアム島北部「平和慰霊公苑」にて

マリアナ諸島のグアム島にNPO法人柔道教育ソリダリティーの学生ボランティアとして派遣されました。道場は縦長で柱があり畳に隙間があり、試合場がないなど環境は決して良いとは言える場所ではありませんでした。

1日目は受け身や打ち込み中心の基礎練習を行った後、相四つの組み手の奥襟の組み方、背負い投げ、大内刈りの説明をしました。

2日目は、早朝5時30分からトレーニングを行いました。最初は数人のみでしたが、学校や仕事がある忙しい中にもかかわらず、20名ほど集まってくれました。午後の練習では山口先生が中心となって寝技の基本の補強練習、抑え込みを行いました。立ち技では野口が一本背負い投げ私が大内刈りを行いました。グアムの方々は、大内刈りをする人が多く私達にたくさんの質問してくれたので、教えていて嬉しかったです。

3日目の朝は、馬跳びなどのトレーニングを入れて行い、午後の練習では、寝技の復習と寝技の乱取りを行いました。グアムの柔道は、寝技が強く抑え込み事ができませんでした。「なぜ、寝技が強いのか？」と質問すると、「グアムでは寝技が、人気でジュニアの選手などでも世界チャンピオンも寝技が大切と言う」と答えてくれました。

4日目は、今まで行った寝技の復習を行い、立ち技では移動打ち込み、三人打ち込みなど様々な打ち込みを行いました。午後からはNPO法人柔道教育ソリダリティーの活動の説明や嘉納先生のお話などの講義を橋本先生からしていただきました。それから道場に戻って嘉納先生が最後に作ったと言われている五の形をやりました。グアムでは、スポーツの柔道しかやらないとのことで形にとっても興味を持っていました。初め不思議そうな顔していたグアムの方も、いざやってみると難しくとても熱心に練習を行っていました。

最終日は、立ち技のみの打ち込みをやる予定でしたが、急遽、形の練習と発表会になりました。発表会では、小さい子供達もとても上手に形の演武していました。今回の活動で、皆さんに、上手に教えられたか分かりませんが、教える立場としてとても勉強になりました。

東海大学体育学部4年 佐藤 優作

自分は背負い投げ、一本背負い、を主に担当し、一日目は背負い投げ、二日目は一本背負い投げ、三日目は大内刈り～背負い投げ又は一本背負い投げという流れで指導をさせていただきました。大学で行っている準備体操をやりながら体を慣らししていく中で、自分の動き一つ一つを真剣に見て学ぼうとしている感触がありました。受け身の指導も行わなければならないと考えたのですが、思った以上に受け身が上手く指導することはありませんでした。背負い投げの指導について、足のステップや手の動きなどを説明しながら講習していると、質問がたくさん出て熱心に柔道を学ぼうとしているのが伝わってきました。柔道自体のレベルは、あまり高くなかったのですが、みな寝技が強く感じました。今後、立ち技を磨いて、技を極めていけばグアムの人達の柔道レベルはとても高くなるのではないかと思います。また、初めて人に教えるという経験がこんなに難しいことなのかという事を最初に感じました。同時に、教えたことが伝わった時、とても嬉しいということを感じることが出来ました。

最終日の前日に、橋本先生から「柔道の原理を学び、その心を社会に活かそう!」の題で講話がありました。その後の練習は「五の形」を学ぶことが主な練習内容となりました。グアムの人達は、形というのを見るのもやるのも初めてでさうで、とても興味を持っていました。日本では、若い人が「形」に興味を持つということがあまりないため、「形」までも真剣に学ぼうとする姿を見て、日本にはない姿だと思いました。最終日も練習の予定でしたが、みな「形」をしたいとのことで急遽、「形」の発表会になりました。グアムでは、練習以外は主にリックジュニアさんと一緒に過ごしました。有名な海に行き、練習後にはBARで飲みながら柔道の話で盛り上がりました。グアムの人達は優しく溶け込みやすい人ばかりで、楽しい時を過ごすことが出来ました。

グアムは、スペインの植民地、次に日本の植民地になり、今はアメリカの管轄になっています。そのため、様々な文化と、良いとは言えない歴史が多くあることを現地に行き体験しました。最終日の前日に行った日本軍の司令部跡地では、実際に日本人がそこで亡くなったと聞き、改めて戦争の恐ろしさを知った気がしました。グアムでは、米軍の飛行機なども多く飛んでいるのを見ましたし、島の外側がほとんど米軍基地です。グアムの人達はとてもテンションが高い人ばかりですが、苦しんでいる部分もあるのではないかと感じました。

今回、柔道の指導でグアムに派遣していただき、本当に貴重な体験をさせていただきました。グアムでの指導に自分を推薦して下さい感謝しています。派遣して下さいNPO法人柔道教育ソリダリティーの皆様へ感謝し、学んだことを今後の自分に役立てて行きたいと思います。本当にありがとうございました。

東海大学体育学部4年 野口 竜光



ミャンマー Myanmar

2012年8月14日～9月13日、東海大学武道学科4年生の工藤優宗君と井坪佳祐君をミャンマー・ヤンゴン市に学生ボランティアとして派遣いたしました。

As student volunteers, we dispatched Hiromune Kudo and Keisuke Itsubo, who are both seniors learning at the Department of Judo and Kendo, Tokai University, to Yangon City, Myanmar, from August 14 to September 13, 2012.



ヤンゴン市内の道場で指導を行う井坪君（左）



ミャンマー柔道連盟の役員の方々と

稽古中には、選手達の質問に答えたり、ほんの少しの技術を教えると目を輝かせて聞いてくれ、私達の技術を吸収しようとする真摯な姿勢に感激しました。私は、選手達と稽古するのを大変有意義に感じ、稽古が待ち遠しい日々を送りました。

監督のタンモン先生の稽古メニューは、驚くほど豊富で試行錯誤されていました。「何十年も前から講道館の先生方をはじめとする日本の指導者がミャンマーを訪れ指導して下さったから」とタンモン先生は話して下さいました。日本人指導者の提案した様々なメニューや指導方針を大切に、ミャンマーの選手達に合ったメニューにアレンジしているようでした。

ミャンマー柔道連盟は、3つの理由から基本を大切にしているそうです。1つ目が、選手達が現役を終え、地元に戻り指導者になった時の引き出しを増やすためです。ナショナルチームの選手は地方から集まり寮生活をしており、やがて現役を終え地元に戻ります。この時に、指導ができミャンマー柔道界の発展に貢献できる人材を育成しているそうです。2つ目が、ナショナルチームの選手でも競技歴の短い選手長い選手がいるため（ナショナルチームには、10代後半から32歳のベテラン選手までいる）、レベルの低い選手に合わせていること。3つ目は、基本練習の中で打ち込みや投げ込みをたくさん数をこなし、体力の向上につながることを狙っているそうです。

1ヶ月を通じて、選手達と積極的にコミュニケーションを取り、仲良くなることができました。そんな中で、自分の説明した得意技が練習メニューの中に加わりました。先生方も一生懸命に技術を吸収しようと、納得いくまで色々な質問をして下さいました。

最初の1日目の夜は「こんな場所に1ヵ月いるのは長いな」と思っていたのですが、帰国日は「本当に1ヵ月経ったのか」と疑問に感じるほど短く感じました。みんなと別れるのが辛く寂しい気持ちになりました。日本で生まれ、世界へと羽ばたいた柔道を通じて、素晴らしい出会いし、異国の地で友情を深めることができました。改めて柔道をしてきて良かったと思うとともに、柔道が世界平和にもたらす影響力を感じました。今後は、柔道で学んだ経験を国内だけでなく世界で生かしていきたいです。

たくさんの時間を一緒に過ごした選手の皆さん、私達を温かく迎え入れてくれたミャンマー柔道連盟の先生方、毎日朝から夜まで道場に来てくれた通訳のメインテイン氏、他にもたくさんの方々に支えて頂いたお陰で、充実した1ヵ月間を送ることができました。それは、NPO法人柔道教育ソリダリティーの学生ボランティアとして派遣されたからであると思っています。私を派遣して下さいました山下先生、ミャンマーでの私達を常に気にかけてくれていた光本さん、小澤さんに心よりお礼申し上げます。

東海大学武道学科4年 井坪佳祐

私の大学生生活最後の夏休みのほとんどをミャンマーで過ごすことが決まったのは、派遣される2週間前の事でした。目的は、2013年12月に行われるミャンマー開催の東南アジア競技大会（SEA Games）に向けての強化でした。派遣の前には、海外指導経験豊富な光本健次先生に海外指導講習をしていただき、現地での指導に備えました。

ミャンマーに着くと、ミャンマースポーツ局事務局長のアオ・ナンソイ氏、通訳をして下さったメインテイン氏が笑顔で出迎えてくれました。アオ・ナンソイ氏は、元バレーボールの代表選手ですが、スポーツ局から柔道連盟に派遣されたそうです。柔道が大好きで、ルールも一生懸命覚えたと話して下さいました。

道場に到着すると片言の日本語と弾ける笑顔の監督のタンモン先生が迎えてくれました。ミャンマーでは『柔道と言ったらタンモン先生』というぐらいの有名で、人柄の良さから他競技の人々からも人望が厚い先生です。日本でいう山下先生のような存在なのだと感じました。

当初は、指導者として派遣されたつもりでしたが、現地に着くと指導や練習指揮はあまり求められておらず、学生選手として練習相手という立場で迎えられたのだと感じました。そこで、選手達の手本となる態度で稽古やトレーニングに参加し、選手達の刺激になるよう心がけました。

最初に参加した柔道の稽古では、日本との環境の差に戸惑いを隠せませんでした。明かりの無い暗い道場の量は隙間だらけで滑って危なく、常に自分の足の指が畳に挟まらないように注意しながら稽古しなければなりませんでした。選手達は、1人1着しか柔道着を支給されていないため、週に1回しか柔道着を洗えず、洗う時にも洗濯機がないため、地面に柔道着を置きタワシでこすり手洗いしていました。そうして、ボロ雑巾の様な柔道着になってしまうのを目にしました。週末になると柔道着は練習前から汗で濡れており、握るとヌルヌルして、臭いも強烈になりました。初めは、これらの環境に慣れることが出来ませんでした。次第に気にならなくなりました。



稽古の30分前には道場に行き、選手と積極的にコミュニケーションをとっていた井坪君



トレーニングの合間のひととき



ミャンマーの新聞にも取り上げられました



2013年ミャンマーで開催される東南アジア競技大会(SEA Games)に向けて指導を行った



現地の言葉でコミュニケーションを、「指差し会話帳」を活用する工藤君(左)

ミャンマーに1カ月間柔道を教えに行くと聞き、言葉も分からない、食べ物も合うか分からない、柔道もしっかり指導できるかも分からないなど不安でした。しかし、ミャンマーに実際に行ってみると、柔道協会の会長や副会長、指導者の方々、選手など皆とても親切でミャンマーでの環境に慣れることができました。私達は、ミャンマーに指導者としていったのですが、自分が今まで行ったことのない回転運動や寝技の補強運動、移動打ち込みなどのメニューがあり、教えるよりも教わるの方が多かったように思います。また練習時の選手は、笑顔で楽しそうで、手を抜かず稽古に励んでいて本当に柔道が好きなのが伝わってきました。柔道場は電気が少ししか点かない、畳も隙間だらけ、柔道着も1人1・2着しかもっていないなど環境は恵まれていないと感じましたが、柔道の知識や礼儀などの指導はしっかりと行われていました。選手たちのチームワークは非常によく、今後技術を少しずつ身につけてどんどん強くなって欲しいと思う最高のチームでした。

私は、東海大学でリサイクル柔道衣係をしています。ミャンマーに行く前に、柔道衣を段ボールに詰めてミャンマーに送ったのですが、それが私がミャンマーにいる時に届きました。そこで柔道衣を受け取った選手たちが喜んでる顔を見ることができ、とてもやりがいのある仕事をさせていただいていると感じました。

私はミャンマーに行き、外国人選手に柔道を教えるなど日本では体験することができないことを体験させていただきました。今後の自分にとり、良い勉強となりました。長いようであっという間の1カ月間でしたが、本当に行って良かったと思える貴重な1カ月となりました。滞在中は、たくさんの方々にご迷惑をかけてしまったこともありましたが、たくさんの方々の支えがあり無事に帰国することができました。私を支えて下さったミャンマー柔道連盟の皆さん、私を派遣して下さいました山下先生、事務局の光本さん、小澤さん、皆さまにお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

東海大学武道学科4年 工藤 優宗



井坪君、工藤君を中心に練習は行われました



大きく取り上げられた新聞記事



ミャンマー滞在中に、リサイクル柔道衣が届き、贈呈式が行われました



ナショナルチーム監督、タンモン氏(右)と

柔道で日本の心を世界へ伝えるために

留学生柔道体験

2012年11月21日に東海大学日本語別科の留学生8名を対象に、東海大学白瀬英春教授の指導の下、柔道の体験授業を開催しました。

On November 21, 2012, we held a judo class to provide eight students of Tokai University Japanese Language Course for International Students with an opportunity to experience judo, under the guidance of Mr. Hideharu Shirase, Professor of Tokai University.



留学生に柔道の技を説明する白瀬教授

東海大学日本語別科の学生ら8名が、柔道体験をしました。2012年11月21日、東海大学日本語別科で勉強しているベトナム、オーストラリア、ドイツ等の留学生8名が、柔道体験をしました。今回の体験教室は武道学科白瀬英春教授にご指導していただきました。柔道部員から道着の着方、帯の締め方など教えられた後、白瀬英春教授から基本的な動作の説明を受け、実際に寝技を行いました。短い柔道体験でしたが、留学生の一人は、「学科では勉強することができない日本文化に触れることができた」と、感激した様子で話しました。

この体験を通して少しでも日本の心、柔道の心を学んでいただけたら幸いです。本法人は今後も、日本に留学している学生への柔道体験を実施していきます。今回、指導して下さいました白瀬英春教授に、心よりお礼申し上げます。

日露友好支援事業

2012年9月6日～10日の期間、ロシアへ柔道を普及したオシェプコフ氏の「生誕120周年記念式典」に、山下理事長、浅井信幸ロシア担当を派遣しました。

From September 6 to 10, 2012, we dispatched Executive Director Yasuhiro Yamashita and Nobuyuki Asai, our official in charge of Russian affairs, were dispatched to Russia to participate in the event to commemorate the 120th anniversary of the birth of Vasilii Oshchepkov.



式典前に行われた柔道教室には多くの参加者が集まりました

ワシリー・オシェプコフ氏は、1892年サハリンで生まれ、16歳の時に、日本のロシア正教会へ神学生として留学しました。留学中に柔道を始め、1911年講道館に入門しロシア人で初めての初段を取得するなど日本の柔道を勉強しました。1914年に帰国すると、ウラジオストクで柔道場を開設し、スポーツとしての柔道だけでなく護身術としての柔道を広めました。1930年代に入ると、彼の教え子たちがロシア各地で柔道指導を行うなど柔道の普及が進みました。

しかし、1937年スターリン時代に、柔道を行っていた彼は「日本のスパイ」という無実の容疑で逮捕、投獄され亡くなりました。オシェプコフ氏に触れることが難しかった時代に、柔道は彼の弟子であったアナトリー・ハルランピエフ氏の手によりソ連式フリースタイルレスリングとなりロシアの国技として独自の発展をとげました。そして、第二次世界大戦後に、サンボ(武器を持たない自己防衛という意味)と名付けられました。現在、柔道家として有名なプーチン大統領、彼の柔道の恩師ワフリン氏、ロシア連邦国家院議員のシェスタコフ氏などは、サンボが柔道を始めるきっかけになっています。

そのオシェプコフ氏の生誕120周年記念式典がロシア、ウラジオストク市で開催され、山下理事長、浅井信幸ロシア担当が出席しました。



三井物産株式会社の支援により、オシェプコフ氏の胸像が設置されました



今も残る、ロシアで初めて設立されたオシェプコフの柔道場



道場の中にある、オシェプコフ氏と嘉納治五郎師範との関係が書かれた資料を見る山下理事長

オシェプコフ生誕120周年記念式典に参加して

本法人と国際サンボ連盟(FIAS)は三井物産株式会社の支援により9月9日にロシア連邦ウラジオストク市にありますスポーツ・センター「オリンピエツ」で、柔道を通して日露の架け橋となったオシェプコフ氏を記念する式典「オシェプコフ生誕120周年記念式典」を開催しました。

式典前には、前日に行われた柔道教室の続きを行い、観客の式典への期待が高まりました。式典開催にあたり宮川在ロシア日本大使館公使、ゴルチャコフ沿海州議長、モストヴィッチ沿海州副知事から祝辞をいただきました。

式典にあたり開催された柔道教室で山下理事長は、「柔道では戦う相手は敵ではない。戦う相手がいるから己が磨かれる。だから戦う相手には感謝の心と敬意を持たなくてはならない。それが礼の心です」と話しました。また、「柔道、サンボをはじめとするスポーツ、学術、芸術、文化などを通し日本とロシアがもっとお互いのことをよく知り真の隣人、真の友人になることを心から願っている」と話しました。その後、子供から大人までの柔道選手の技が披露されました。クライマックスは山下理事長による演武でした。大外刈、大内刈、体落に、集った全ての人が魅了されました。

式典は、第24回APEC首脳会議最終日に開催されており、会場の外のウラジオストク市は活気に満ちていました。軍港としてかつては閉鎖されていたこの街へ世界中から人々が訪れていました。ウラジオストク市は日本から二時間です。今後、お互いにもっともっと行き来し交流し友好関係を深めていってほしいと願います。その架け橋のひとつに、柔道あるいはサンボがなれば大変嬉しいです。

最後になりましたが、今回の式典を共催していただきました三井物産株式会社に、心から感謝申し上げます。

ロシア担当 浅井 信幸



柔道教室に参加した皆さんと汗を流す山下理事長



ロシア連邦国家院議員であり国際サンボ連盟会長のシェスタコフ氏と



左から浅井ロシア担当、三井物産(株)飯島彰己代表取締役社長、山下理事長

青少年を育てるために

第34回山下旗柔道大会

2012年7月8日宮城県登米市総合体育館で第34回山下旗柔道大会が行われました。東日本大震災の影響で第33回大会は開催されませんでしたが、今年は小学生51チーム、男子中学生39チーム、女子中学生25チーム、合計115チーム、687名が東北6県から参加し、例年通り活気ある大会となりました。

The 34th Yamashita Flag Judo Tournament was held in Tome City Gymnasium in Tome City, Miyagi Prefecture, on July 8, 2012.



大会を支えているご父兄、関係者の皆さん



1年ぶりに開催された大会には687名が参加しました

2012年7月8日宮城県登米市総合体育館で行われた第34回山下旗柔道大会は、小学生51チーム、男子中学生39チーム、女子中学生25チーム、合計115チーム、687名が東北6県から参加し、活気ある大会となりました。

大会に先立ち、豊里柔道クラブの芳賀操人君の選手宣誓、岩出山中学の笠原悠君のスピーチがありました。笠原君は「柔道の練習でとても辛いことはあるけれども、厳しい練習ほど自分を強くしてくれると思い頑張っています。いつかは、オリンピック選手になりたい」と話しました。

続いて棟田康幸氏の柔道教室が始まりました。「ここにいる中学生とあまり変わらない身長ですが、2m近い大きな外国人選手と戦うためのワンポイントなども実際に技を見せながら説明していきます」と引き手を持つ位置や姿勢を崩さない大切さなどお話ししながら、キレのある支え釣込み、背負い、内股などの技を次々と見せていました。

参加者からの質問に対して「『柔よく剛を制す』という言葉のように、力だけでなく様々な足技を使い、相手を動かし崩していく」という具体的なアドバイスをしていました。「棟田選手の礼は丁寧で心がこもっていて、とてもきれいな礼だと評判ですが」と質問されると、「いろんな方から礼の意味や大切さを教えていただき、自然とこうなりました」と答えが返ってきました。子供たちに、技だけでなく柔道の心も伝わったのではないかと思います。

大会は、小学生の部は、鶴田町柔道少年団(青森県北津軽郡鶴田町)、中学生男子の部は、御野場石川道場A(秋田県秋田市御野場)、中学生女子の部は、柳柔館牛木道場A(宮城県角田市角田)が優勝しました。毎年、一流の柔道家から多くのことを学び、良き仲間たちと切磋琢磨できる環境が続けられるのも、大会を支えていらっしゃる関係者の皆様のおかげであると感じました。この大会に関わったすべての皆様のご健康とご活躍を心から祈念いたします。

事務局 小澤浩子

第3回望星ジャンボリー

8月25日(土)～26日(日)に第3回望星スポーツジャンボリーを東海大学湘南校舎にて開催しました。2日間で304名の選手が参加し、柔道大会では、東海大学柔道部の協力により、活気ある試合が展開されました。

開催地 (学)東海大学湘南校舎武道館
開催日時 2012年8月25日(土)、26日(日)
参加チーム 国内外21チーム、304名
主催 (学)東海大学望星学塾、
共催 NPO法人柔道教育ソリダリティー
後援 (学)東海大学スポーツ教育センタースポーツ課、松柔会
(学)東海大学体育学部武道学科、東海大学柔道部OB会



第31回望星旗少年武道大会(柔道の部)

2012年10月21日(日)に第31回望星旗少年武道大会(柔道の部)が開催されました。大会には、全国から高学年41チーム、低学年38チームが参加し、熱戦を繰り広げました。

開催地 (学)東海大学湘南校舎武道館
開催日時 2012年10月21日(日)
参加チーム 高学年41チーム、低学年38チーム
主催 (学)東海大学
共催 NPO法人柔道教育ソリダリティー
主管 (学)東海大学スポーツ教育センタースポーツ課
東海大学体育学部武道学科柔道コース
(学)東海大学望星学塾



Rasty Kanokogi Memorial 第32回塾友杯柔道少年大会

2012年12月2日、東京都、望星学塾にて第31回塾友杯柔道少年大会が開催されました。関東地方を中心に24チーム、286名が参加しました。今大会より大会名に女子柔道発展に貢献したRasty Kanokogiさんの名前を冠名に付け開催されました。

開催地 (学) 東海大学望星学塾
開催日時 2012年12月2日(日)
参加チーム 24チーム、286名
主催 (学) 東海大学望星学塾、松前柔道塾塾友会
共催 NPO法人柔道教育ソリダリティー



今後の予定

外国への指導者派遣事業

2013年2月立命館大学春日俊教授をイスラエルとパレスチナへ派遣しました。

Mr. Shun Kasuga, Professor of Ritsumeikan University was dispatched to Israel and Palestine in February 2013.

外国からの選手受入事業

2013年3月2日～31日ミャンマーより男子柔道選手、2013年3月1日～29日モンゴルより男子柔道選手を受入れます。長期研修として、エルサルバドルより男子柔道選手を2013年4月～12月の期間受入れます。

We will accept a male judo athlete from Myanmar from March 2 to 31, 2013, and a male judo athlete from Mongolia from March 1 to 29, 2013. We will also accept a male judo athlete from El Salvador for long-term training during the period from April to December, 2013.

日中友好支援事業

2013年2月「日中友好青島柔道館」の高校生が来日し、女川町長旗争奪復興支援全国高校選抜柔道練成三春大会へ参加しました。

In February 2013, high school students from the Japan-China Judo Friendship Center in Tsingtao, China will come to Japan to participate in the National High School Judo Competition at Miharu for Onagawa Mayor's Flag for Reconstruction Assistance.

2013年3月21日～28日、朝飛大氏、学生ボランティアを「日中友好南京・青島柔道館」に派遣します。

We will dispatch Mr. Dai Asahi and student volunteers to Japan-China Judo Friendship Center in Tsingtao, China, from March 21 to 28, 2013.

日露友好支援事業

2013年3月14日～18日山下理事長、浅井ロシア担当をロシア・モスクワ及びサンクトペテルブルグへ派遣します。

We will dispatch Executive Director Yasuhiro Yamashita and Nobuyuki Asai, our official in charge of Russian affairs, to Moscow and Saint Petersburg, Russia, from March 14 to 18, 2013.

2012年12月から受け入れているロシア女子柔道指導者を2013年6月まで引き続き受入れています。

We have accepted Russian female judo instructors since December 2012. They will continue to stay with us until June 2013.

講演会事業

2013年5月31日、第14回講演会を開催します。

The 14th lecture meeting will be organized in June 2013

教材制作事業

「柔道教則本(柔道入門)」の日本語版制作を行います

We are going to create the Japanese version of the Judo Beginners' Manual.

お知らせ

最新活動は、ホームページをご覧ください！

ホームページでは、柔道教育ソリダリティーのバックナンバー講演録・会報誌を無料でダウンロードすることができます。印刷物でご要望の方は、事務局0463-58-1211(内線3524)までご連絡下さい。

<http://npo-jks.jp>

本法人へ寄附をされた神奈川県民の皆さまへ

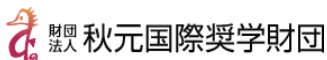
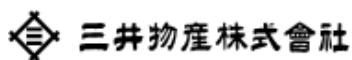
本法人へ寄付をされた神奈川県在住の県民に対して個人県民税の控除を受けられるようになりました。

個人県民税控除額:(寄附金の合計-2,000円)×4%

詳しくは、県税事務所まで

2012年度 寄附・団体会員一覧

— Supporter —



三井物産(株)、(財)秋元国際奨学財団、(学)東海大学、ミズノ(株)、三菱商事(株)、日本たばこ産業(株)、(株)セレモアつくば、羽田タートルサービス(株)、アスカコーポレーション(株)、(株)わくわくコーポレーション、東建コーポレーション(株)、(株)神田製作所、(株)ランクアップ平野屋、全日本空輸(株)、(株)小松製作所、大成建設(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)東芝、秀和ビルメンテナンス(株)、(株)三菱東京UFJ銀行

(株)アサヒ、(株)アシックス、(株)アットライズ、伊藤超短波(株)、植木会計事務所、(株)S・Yワークス、大峰堂製薬工業(株)、(株)オカモト印刷、(株)小倉屋柳本、(株)オネスト、(学)加計学園、(株)霞ヶ関東海倶楽部、(有)角川インベストメント、神奈川柔道連盟、川中不動産(株)、共和電子(株)、(株)黒沢総研、京王観光(株)、京王電鉄(株)、(株)廣洋、相模トラリアム(株)、(株)三技協、(株)鈴蘭蒲鉾本店、住友商事(株)、(株)成通、総合警備保障(株)、(株)ダイナミックスパースンズ東京、(株)ダイワコーポレーション、(株)築地すし好、(株)テック、(株)東海教育研究所、東海教育産業(株)、東海大学女子柔道部、東海大学付属相模高等学校、公益財団法人 東京都柔道連盟、(医)徳真会グループ、土志田建設(株)、農業生産法人(有)十津川農場、(株)豊蔵コーポレーション、(株)ニッセン、日本BS放送(株)、(医)白磁会中ノ島センタービル歯科、(株)博報堂DYメディアパートナーズ、早川繊維工業(株)、(株)ハート出版、(株)富士サービス、(株)藤野製作所、(株)マツヒロ、丸竹コーポレーション(株)、三菱重工(株)、(有)みのさんファーム、武蔵野市柔道連盟、明光産業(株)、医療法人社団 明正会、(株)メディカルラボ、柳田国際法律事務所、(株)ユーミーネット、横浜市柔道協会、(学)了徳寺学園、(学)了徳寺大学、(株)レイクウッドコーポレーション

(50音順)

個人会員に関しては、ホームページ中の協力者の紹介をご参照下さい。

<http://npj-jks.jp>

	個人	団体
正会員	309	57
寄付	31	25
アドバイザー	33	

入会のご案内

柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁の認定を受けました。本法人への寄付は寄付金控除、損金算入など税の優遇措置の対象となります。本法人の活動は、皆さまからのご寄付、ご支援によって運営されています。本法人の趣旨にご賛同の上、ご協力いただけましたら幸いです。

会員(個人) 一口 5,000円

(団体) 一口 50,000円 ※一口以上から受け付けます

寄付 特に定額はありません

■ 郵便振替 口座記号番号: 00200-7-37175 加入者名: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

■ 銀行振込 三菱東京UFJ銀行 平塚駅前支店 普通口座1573953

口座名称: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕

(トクヒ) ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ

横浜銀行 東海大学駅前支店 普通口座1768726

口座名称: 特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕

(トクヒ) ジュウドウキョウイクソリダリティー リジ ヤマシタヤスヒロ